

# 第2回 東京湾沿岸海岸保全基本計画 (内湾・内房)に係る検討会

---

## 「津波の見直し方針について」

令和5年3月16日

千葉県

---

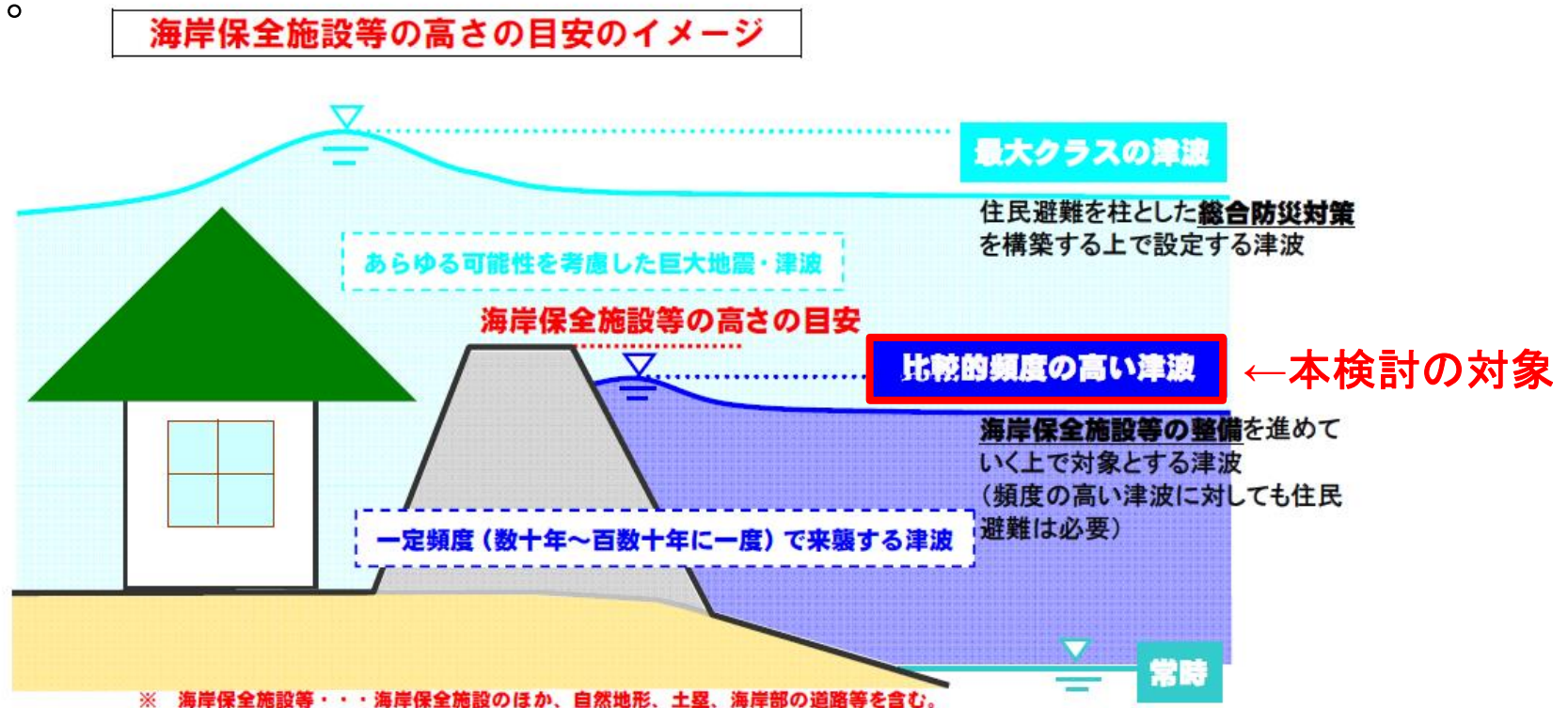
---

# 1. 津波に対する見直しの進め方

## (1) 津波への対応の考え方

津波から防護する高さは国から示された「設計津波の水位の設定方法等について」に基づき、**比較的頻度の高い津波**(=この津波は**設計津波**と呼ばれ、原則として**数十年から百数十年に一度程度で到達**(来襲)する津波)を対象に検討し、計画値を設定。

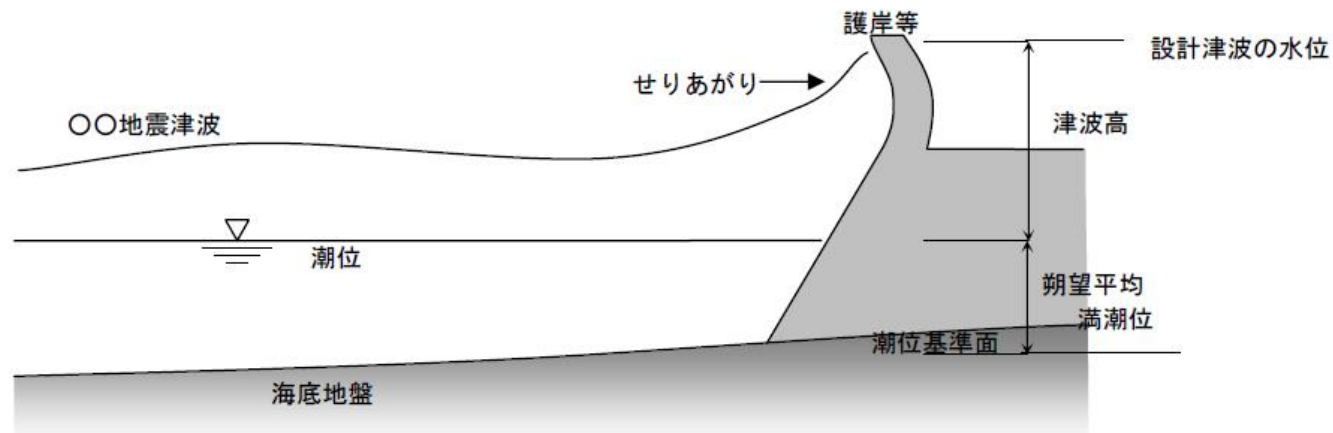
設計津波の水位以上の津波に対しては住民避難(ソフト対策)を柱とした総合的防災対策で対応。



# 1. 津波に対する見直しの進め方

## (2) 現行計画における防護の考え方

計画天端高【津波】＝朔望平均満潮位＋津波高(せりあがり考慮)



出典：H28.9東京湾沿岸海岸保全基本計画(千葉県区間)

- ・ 朔望平均満潮位：最近5か年の潮位観測データから期間平均値を求め算定。
- ・ 津波高：比較的頻度の高い津波(＝設計津波)を対象に、海岸保全施設へのせりあがりを考慮した津波シミュレーションを実施して算定。

# 1. 津波に対する見直しの進め方

## (3) 気候変動を踏まえた外力条件の設定

- ・ 国の計画外力の設定方法等に関する通知の考え方を基本。

「津波を対象とする場合も平均海面水位の上昇を考慮する。」

出典: 気候変動の影響を踏まえた海岸保全施設の計画外力の設定方法等について

条件	項目	現行計画の外力条件	本検討の外力条件	設定根拠
気候変動条件	気候変動シナリオ	—	2°C上昇シナリオ (RCP2.6)	・「海岸保全施設の技術上の基準」一部改正及び関係通知 ⇒RCP2.6シナリオ(2°C上昇相当)
	想定時期	—	2100年時点	
潮位条件	潮位	朔望平均満潮位 ・都県界～富津岬 A.P.+2.1m ・富津岬～洲崎 A.P.+1.9m	朔望平均満潮位 ・都県界～富津岬 A.P.+2.1m ・富津岬～洲崎 A.P.+1.9m	・最近5か年の潮位観測データをもとにした最新の朔望平均満潮位
	海面上昇量	—	0.4m (2°C上昇時の平均値)	

- ・ 外力条件は高潮に対する検討と同様に2°C上昇シナリオにおける海面上昇量を考慮した潮位をもとに津波シミュレーションを実施

⇒ 津波に対する防護に必要な高さを算出